

# 緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

97年年頭に想う！ .....	P 2
持続可能な開発とは (講演会抄録) ...	P 4
もう一度行きたかったカナダ .....	P 7



「霊丘県にて 25号F」(油彩・栄永大治良) 8ページに個展のお知らせ

GENに参加するには

- 会員・会報購読者になる
- 自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ワーキングツアーに参加する
- ビデオ『黄土高原に緑を！』を見る
- 使用済みテレカを集めて送る
- KDDグリーンアースダイヤルに登録する etc.

あなたのご参加を待っています！

1997・1

53

# '97年年頭に想う！

有元 幹明 (GEN副代表・大阪市教育振興公社企画主幹)



「恭賀新春 吉祥如意

昨年も中国・黄土高原にて360何万本目かの樹を植えてきました。

日本のこと小さく見えます。

余りにもセコイ世相に怒りも通り越してアキれます。

老兵は未だ頑張ります。

Thinking globally, acting locally.

一言多いと言われる1997年です。」

私の今年の年賀状です。

テレビも見ない、新聞も読まない、

毎日過ごします。

しかし、夜9時ごろ(停電もあったり)ベッドに入ってから、今日一日になんとも言えない充実感にひたれます。

日本での情報があふれている毎日にはなんの充実感もないのに、黄土高原では感じます。

それはたぶん、自分がなにか役割を果たしているのだと思うからではないでしょうか。

私は今年定年3年目ですが、定年を

電話もかからない、中国・黄土高原植樹協力のワーキングでの10日余り、こんな

迎える2~3年前、仕事を離れた自分を考える時期がありました。

そんなとき、事務局長の高見君から黄土高原緑化事業の話聞いたのです。

思わずひざをボンとたたきました。これだ！

「地球環境が悪化している。酸性雨で森林が破壊されている。地球温暖化が問題だ」などという声はしきりに聞きますが、そのためにこんなことをしているという具体的で身近な話は聞けなかったところに高見君の話は明確な道筋をもった(本人は試行錯誤もありと言ってますが)ものでしたから私の求めたライフワークに答えが出たのでした。定年直後の95年春に初参加、96年秋、2度目の参加をしたのですが、感想が冒頭の「充実感」でした。あなたにもぜひお勧めします。

黄土高原緑化協力事業への参加を。

## 緑の中国 歴史篇 11

上田 信(立教大学助教授)

『詩経』におさめられた「漢広」を読むときに、思い込みを捨てる必要があります。当時、この詩が生まれたときの環境を考えるとところから始めてみましょう。

この詩を歌った人は、おそらく周の人々であったと思われます。彼らは黄河流域に住み、彼らが見ていた森林には、乾燥のために秋になると葉を落とすアバマキやナラカシワ、チョウセンヤマナラシなどの木々が茂っていました。一方、詩の舞台は黄河流域よりも遙か南方の、秦嶺山脈を越えた先を流れる漢水のほとり、もっと範囲を狭めるならば「漢」すなわち漢水と、「江」すなわち揚子江とが合流する現在の武漢あたりということになります。そこで茂っていた森は、雨が多いためにウバメガシ・アラカシなどが自生する照葉樹林であったと考えられます。

この詩を理解する上で一つの鍵となる点は、歌った人と歌われた場所とのあいだに、植生の相違があるということです。詩の冒頭、「南に喬木あり、

休むべからず」とあるのは、周の人々には見慣れないモコモコと鬱蒼とした照葉樹林、そのなかに足を踏み入れると昼でも闇が支配するジットリと湿潤な林床、遠目に見れば森を突き抜けて高木がそびえているが、とてもその根本で休む気にはなれない、こんな光景を描くことができます。

照葉樹林で生活していたのは南方の民族、現在のミャオ族の祖先で、文化も言葉も異なっていたはず。「漢に遊女あり、求むべからず」とあるのは、漢水のほとりで見かけた娘たちも、異境の民なので、笑いさざめく娘の姿に見とれはするが、声を掛ける勇氣は出ないということだったのではないのでしょうか。

しかし、異なりはするけれど、敵意を抱いていたわけではありません。むしろ南を憧憬していたようです。そこで「漢の広き、泳ぐべからず、江の永き、いかだすべからず」と、たどり着けない地への思いを歌うのです。

### 1997 春の黄土高原ワーキングツアーへのお誘い

春の黄土高原は気まぐれです。日中は20度をこえる暖かさで持参したカイロが無駄になった年もあれば、雪の降りしきるなかで植樹をしたこともありました。でも、やっぱり春は植樹の最適期ですし、黄土高原がもっとも黄土高原らしい季節です。

日程：1997年3月27日(木)~4月6日(日)

費用：一般 17万円、学生 16万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN会費1年分含む)

中国国際航空利用予定

関西国際空港発着

成田空港発着便利用ご希望の方、北京もしくは大同で合流ご希望の方、ご相談に応じます。

定員：25名

締め切り：2月28日(ただし、定員に達し次第締め切ります。)

お問合せ・お申込み：GEN事務所までお電話・FAX・E-MAILください。申込用紙をお送りします。



# 世界の森林と日本の森林 (その7)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

## 乾燥地帯の森林

乾燥地帯といっても砂漠やステップやサバンナのような草しか生えない乾燥地ではなく、一応森林のできる乾燥気候地帯(B気候)の意味である。日本は全国的にA気候つまり湿潤地帯だからB気候地帯はないが、世界にはB気候地帯が多い。ユーラシア、南北アメリカ、アフリカ、オーストラリアの各大陸のほとんどがB気候といってもよいくらいだ。お隣の中国は東部沿岸地域のみA気候で西部の大部分はB気候である。しかも最も乾燥した砂漠地帯が広い。

なにごとにも中間があるが、気候帯も中間帯つまり移行帯が存在するケースが多い。われわれが造林のお手伝いをしている中国山西省もその移行帯に位置する。しかし、山脈などの影響で、移行帯がなく、急に変わる場合もある。たとえばメキシコの東部は、中央高原から急に下降するが、その線上から急変して湿潤地帯に入る。BからAへの急変である。

## 暖帯落葉樹林

日本にも暖帯落葉樹林があるが、その境界ははっきりせず、常緑樹が混じったりすることが多い。クヌギ、アベマキ、コナラ林などであるが、尾根ひとつ越えれば変わってしまうような小スケールのものである。

暖帯とは温帯の南部で亜熱帯に接す

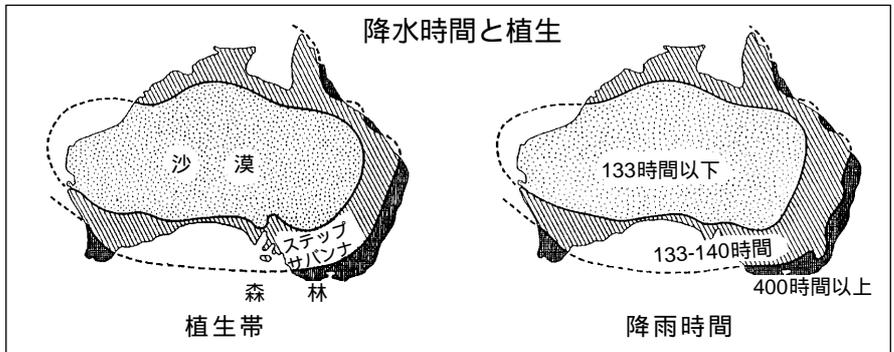
る地帯である。暖かさの指数では当然120を超えている。だから雨量が十分なら、常緑樹林が成立するのであるが、水が不足するから落葉樹林になる。それは一年を平均的に雨不足の場合もあれば、季節的に乾季、雨季的になる場合もある。

中国のほぼ中央部、揚子江中流域の南部に長沙という都市があり、その街はずれの自然保護地にあった暖帯落葉樹林は印象的であった。緯度的には亜熱帯に近いが、大陸であるため、温度の高低差が強く、寒さに弱い樹種は育たないようであった。ナンキンハゼ、エノキ、チャンチンモドキ、キリ、トウカエデなど日本の街路樹としてなじみのものばかりだった。

## ユーカリの林

ユーカリの木はオーストラリアの特産品であるが、これは一応常緑樹である。一応とことわったのは、緑といっても褐色がかった銀色で、緑とはい

がたい色合いだが、落葉樹ではない。乾燥に強く、本来なら暖帯落葉樹林になるべき気候帯に発達している。日本で栽培するとかかり緑色が出るのだが、原産地ではまさに銀色であった。1属300種という大きな属だが、熱帯から亜熱帯まで分布しており、山の尾根筋に分布する種類や谷底の湿地に生える種類もある。オーストラリアは乾燥した大陸で、雨の降る時間で植生帯がはっきりと分けられる(図)。同じような気候帯の世界各地に植林されているが、北米カリフォルニア、マダガスカル、南米ウルグアイに多く植えられて、まるで野生のように広がっている。日本にある古い木はグロブルスというタスマニアに多い寒冷地むきの種類で、江戸時代末期から明治の初期に宣教師がもたらしたものであるといわれている。多くの種類が導入されたが、湿潤日本には適せずいつしか消えてゆき、このグロブルス種だけが残っている。



## ご寄付・助成金

### 国際ソロプチミスト奈良4クラブ

黄土高原の緑化協力がはじまってまもなく、渾源県に協力団を派遣し、その後毎年、資金協力をうけている国際ソロプチミスト奈良4クラブから、96年度もあわせて92,220円と使用済みテレカの協力をうけました。12月20日、奈良クラブの例会のまえに贈呈式があり、高見事務局長が出席して、現地の近況報告をおこないました。

### 富士ゼロックス端数倶楽部

富士ゼロックス端数倶楽部から昨年度につづいて今年度も20万円、マッチングギフト方式で企業からも同額の協力をえました。このような寄附が広がることはとてもうれしいことです。

### イオングループ環境財団

イオングループ環境財団から黄土高原の緑化にたいして今年度は50万円の助成をうけました。昨年度につづいて2度めです。財団のポスターには、全ジャスコ労働組合の協力団が黄土高原

で植樹にとりくむ写真が掲載され、ジャスコの店頭などに掲示されています。

## WANTED!!

緑の地球ネットワークの会計事務をコンピュータ化し、名簿管理と連動させることを準備中です。File Maker Pro 3.0に習熟されている方にご協力いただくと助かります。事務所のパソコンはMacintoshですが、Windows版を使っておられる方でもけっこうです。事務所までご連絡をお願いいたします。

# 持続可能な開発とは

## 第3回会員総会記念講演抄録

～柴谷篤弘さんが語る～



昨年11月30日の会員総会で、前京都精華大学学長の柴谷篤弘さんに記念講演をしていただきました。委任状のなかにも「ぜひ聞きたいが出席できないので内容を教えてほしい」という声があり、また、「緑化の具体的な話も面白いがこういうスケールの大きな話も刺激になります」という感想もいただきました。不十分ではありますが、大筋をご紹介します。(文責・編集部)

### 【多様性の持続と開発】

種の持続から多様性の持続へ

多様性のある生態系にはいろいろな種が存在している。多様な成分のどれがおかしくなることはしょっちゅうあるので、成分の多いものは長くそのままではありえない。だから、多様なものは本来不安定である。

不安定であれば多様性が持続しないのかというと、それは違う。持続性というのは、時間をたどって変化はしていても続いているということで、種は変化しても多様性は続くのでよい、といういいかたができる。

つまり、多様性を持続させることと種を持続させることは違う、だから仮にトキというものがなくなったとしても、全体の多様性のある生態系が持続すればよろしい、ということになる。

サステイナブルディベロプメント

リオのサミットでは第3世界の多くの国がディベロプメント(開発・発展)を主張したため、多様性の持続が分解して、バイオダイバーシティ(生の多様性)とサステイナブル(持続性)に分裂してしまった。開発、発展が必要な一方、バイオダイバーシティもサステイナブルでなければならない、そこで、ディベロプメントが必要ならば、これが持続するということでサステイナブルディベロプメントが政治的な交渉のなかで出てきたのだと理解していただろう。

このとき、生物多様性の持続のために世界にいくつか見本のような場所をもうけて、その多様性、遺伝子を保っていき、残りの地域は開発してもよろしい、それでバイオダイバーシティのサステイナビリティとディベロプメン

トとは両立するだろう、とまとめられた。こういうかたちのバイオダイバーシティのサステイナビリティは正しいのだろうか。

### 【多様性の持続と開発は両立するか】

サケはなぜ川を上るか

秋になるとサケが卵を産みに川へのぼり、そこで死に、いろいろな獣や鳥がサケを食べる。つまりサケが海から養分、つまり無機塩を陸上に運び、それから陸上で動物がそれを食べる。この無機塩の動きが重力に抗していることが興味深い。

動物の死体は食物連鎖でぐるぐるまわって、結局は水に溶けて海へ行く。海へ流れた無機塩を、鳥や昆虫など羽のあるものが重力に抗して水のなかから陸へ持って上がることになる。

陸に上がるまえに、海のなかではどうなっているのか。植物は太陽の光で光合成をする。太陽の光が届くのは海の表面ぐらいで、深い海の底は光合成をする生物はいない。光合成をする海の植物は、生産量は大きい、大部分は食べられてしまう。

無機塩は熱帯の陸上では林になるが、海のなかでは植物性のプランクトンを動物が食べてしまうから、動物になる。だから陸から離れた大洋の表面では無機塩はなくなってしまふ。栄養物は陸の近くにある。陸上から流れてきた無機塩を使って、生物が発生する。大洋の真ん中ではそれはおこらない。ただし大洋では大きな魚が泳ぎ回し、海流があるので、移動はしている。それは水平方向の移動だが、垂直方向はどうなっているのか。

高緯度から低緯度へ、海から陸へ  
海中の大きな魚や動物は死ぬと底へ

沈む。陸上から入ってくる無機塩も底に沈んでしまふ。リンなどはどんどん海底にたまって、陸上でいちばんはじめに枯渇する元素だといわれる。

海底にたまった無機塩を海面に上げる動きはふたつあって、ひとつは南アメリカの西海岸などでみられる湧昇。底にある温度の低い栄養分の豊富な水が湧いてくる。

もうひとつは、北と南の海でみられる。無機塩の豊富な海底の水温は0度に近い。海面も、夏は暖かいが、冬は0度。完全には凍らず氷と水が混じっているところでは、海底と海面の温度が同じになって水が混ざる。寒いところでは冬の間そうやって海の水を混ぜておいて、夏になると太陽の光で植物、プランクトンが繁茂して、それを動物が食べる。つまり海の幸は北の海と南の海にあることになる。

渡り鳥が北へ行くのは、そういう海の幸を求めてであり、冬は暖かいところで越冬するが、実際に餌を食べてふとって子どもを産んで増えるのは北の海である。カモやツルなど大型の鳥はみんな北へ行く。

渡り鳥が北の海の幸をこちらへ持ってくるほかに、サケもそうだ。著しい量の海の幸がサケの形で川へ戻る。ひしめくように戻ってきて、全部陸上の動物に食べられる。あるいは無機塩に分解して、川のなかで今度はかげろうなどの淡水の昆虫になる。そしてそのかげろうが魚や鳥に食べられて、結局、海の幸は、サケならサケの形で陸へ上がってくることになる。

生態系は物質循環のシステムだ

地球全体、熱帯から温帯、寒帯まで、海の底から高山のてっぺんまで、全部



をふくむ物質の循環のなかで、重力に抗する生物のはたらきが、物質を混ぜている。

食物連鎖とは、下位のもを上位のものが食べて、それが次つぎと連なっていることだが、その連鎖が非常に複雑なネットワークになって、その複雑さが何段階にもなっている。これが多様性であって、この多様性は何を意味するかというと、地球全体の無機物の運行、動きを長い時間にわたってやっている本体である。

したがってバイオダイバーシティというのは、単に遺伝子の見本が生ける博物館のようにして熱帯などにあるだけでなく、その生物が全部生きて動いていて、お互いに食い合いをして物質をまわしているということだ。特定の場所の生物や遺伝子の見本だけでなく、実際の生物の実践がいる。すると、多様性のある場所だけを博物館のように保存するだけではだめで、地球全体の生物の食物連鎖のネットワーク全体を保たなければいけない。多様性のある地域だけをすぼとぬきとり、残りは開発するというリオの図式は、生物学的に見てたぶん破綻している。それではこの図式のままだらうどうなるのだろう。

### 【恥多き生存か、尊厳ある滅亡か】

不定形の危険がいっぱい

いまのままでいくと非常に危険だからわれわれはコースを変えなければならないと1970年代にローマクラブがいよいよはじめて、その後生態学あるいはエコロジー、自然保護が一般に広がってきたが、オゾンホールとか温暖化とか、怖い問題はいっぱいある。

日本の開発は、土建国家の話になるが、借金を国債の形で将来に残して、20年ぐらいの間には2000兆円ぐらいになり、日本は破産するだろうといわれる。国家財政というのは国民の財政を吸い上げて特定のグループのふところを肥やすメカニズムだという非常にショッキングな定義をして、その定義に合う証拠も出している人たちがいる。普通国家財政の概念とは違う。危険がいっぱいでどうなるかわからない。

生態、環境、経済は非線形の理論に

支配されている

線形の理論というのはある作用が加わると結果がどんどん蓄積して、それが足し算になる。非線形の理論というのは、生物の増殖、雪崩などがそうだが、安定しているように見えたものが、ある時急激に変化することをいう。

生態学や地球環境のような、お互いがお互いに依存しあう関係は非線形で、安定相にみえているのにあるとき途端に状況が変わる。いつどのような危険があるかわからず、また相互依存的だから、全体が非線形で、悪くなりだすと急に悪くなる。その時期は予言できないが、悪くなる傾向をとめないかぎり、早かれ遅かれ来る。いつとめたらいいかわからないが、早いほうがいいに決まっている。それが一般の結論になる。

われわれは何をすべきか

ここから先は非常に倫理的な問題になる。つまり、もうまにあわないかもしれない可能性について、われわれはなにが出来るのか。今のうちならまだ大丈夫だという確証はない。もうすでに踏み越えているのかもしれない。いつどこでだれが踏み越えるかということは誰も予言できない。それはわかっている。すると、地球の生態系が後戻りできないほど悪くなり、もはやサステイナブルでなくなる可能性を、まだわからないうちから、その時にどうするかを倫理的にやっておくという話になる。

もしも、地球上に今後長く人類が生存できないという可能性をかなりの数の人が信じるとすれば、その結果はふたつある。一方は、少しでも長くのばすために邪魔なヤツは殺してしまえという競争の原理。これは、非常に非倫理的、非人間的で、そういう人間が生き残る値打ちは全然ない。値打ちがあるうがなかるうが強いものが残るということであれば、論理的にいうと生き残る値打ちのない人が生き残ることになる。

それを恥多き生存と呼ぶなら、もうひとつ、尊厳のある滅亡ということをしていった人がいる。尊厳のある滅亡の可能性というのは、われわれ現在生きて

いるものにとっていちばん重要で、やらなければならないことを定めて、それに目標をあわせていくことである。そのようにすれば、これは夢みたい話だが、案外みんないい子になって、まともな死ぬにはこうしなくちゃならないとおこないがよくなって、ひょっとしたらいい解決に向かうかもしれない。

そのヒントはHIVの患者、感染者にある。かれらの生き甲斐を見ると、カウンセリングをしたり、薬害エイズの訴訟をしたり、今後そういうことが起こらないように世の中のしくみをよくしていこうと一生懸命やっている。長く生きられないといわれることは、ひょっとしたら非常に大きな転機になるのではないか。いつだかわからないそのときまでどうしたらいいかを考えようと、人間の実際の在り方をいま自分で問うというようなことである。

そういう考え方は、いまタブーになっているようだ。だがこれは、パニックをおこしかねない、いつどこに破滅が来るという予言ではない。このままだといつ破局が来るかわからないが、必ず来る方へむかう。後戻りできない、サステイナブルでなくなる時点がいつかは、あらかじめ予言できない。すぎた後で気がついたら遅かったというのがおちということを見てとって、現在においてなにができるかということだ。

大部分の人がそれを戻す方に一生懸命になればいいが、もう乗り越えているとすれば、現在われわれは何ができるか、何をすべきかということの探求を倫理的にするというのがひとつの姿であろう。それは、完全に望みがないわけではなく、ある時にすっかり変わるかもしれない。生きる値打ちのある人生、生き残る値打ちのある社会というのはなにをはっきりさせていくということが、われわれのひとつの課題であろう。

# ナショナルトラスト『チコロナイ』 第2期計画現状報告

第2期計画は1995年12月10日から97年12月9日までの2年間で、募金目標は700万円です。使途は第1期で購入した山林に地続きの約6ヘクタールの山の購入です。

前半の1年が終わった今、1月6日現在、第2期の寄付金が2,168,440円、第1期からの繰越金と合わせて2,933,419円になりました。寄付に参加された方は第1期も合わせて合計374人です。

後半1年で何とか目標を達成したい

と思います。引きつづきご支援をよろしくお願いします。また、今年も夏のワーキングツアーと子どもキャンプを計画しております。春や秋にも、現地を訪れるツアーを実施したいと思っています。要望などがありましたらぜひお寄せください。

なお、大阪では毎月1回、第4土曜日の午後、チコロナイ学習会、チコロナイアイヌ語講座を続けています。こちらにもご参加下さい。

【連絡先】GEN事務所または  
武田繁典 〒546大阪市東住吉区今川  
6-2-6 (TEL/FAX. 06-704-7720)  
貝澤耕一 〒055-01北海道沙流郡平取  
町二風谷31-3 (TEL. 01457-2-2089  
FAX. 01457-2-3991)  
郵便振替 00900-2-52024 チコロナイ

## お知らせ

今年からGENの会報「緑の地球」が隔月発行になるので、チコロナイ関係の学習会、アイヌ語講座の予定、ミニニュースなどをお知らせする「チコロナイ通信(仮題)」を毎月発行します。郵送ご希望の方は、郵送料ともで1年間分1,200円を80円切手15枚で同封して上記武田繁典までお送り下さい。

の今田求仁生氏は氏が代表をつとめる「先住民の杜基金」の紹介をしている。

いずれも「緑の地球ネットワーク」チコロナイ部会が進めている活動と軌を一にするとと思われるので今後の交流や連係に期待したい。(武田繁典)

## 「先住民の杜より」

～ハーモニー96&みどりといやしフォーラム in 高知～  
開かれる

昨年11月10日高知市で、タイのカレン族、カナダのスニガ族そしてアイヌモシリ代表として貝澤耕一さんが招かれてフォーラムが開かれた。(財)高知県国際交流協会、平和資料館草の家が協賛し、高知県、高知市、教育委員会、新聞テレビなどのマスコミが幅広く後援する催しで、森林保護と先住民民族の関係が正面から取り上げられているのはたいへん喜ばしい。

趣意書では「私たちは、経済性や機能でのみ森をとらえることをやめ、森を私たちの文化の根として、山・川・海・里へと続く、『いのち』のつらなりの母胎としての『杜』を再認識し、杜と文化を回復する必要性に迫られているのではないだろうか。」と述べ、また、招待した先住民民族を「いずれも森の民であり、森を文化の根とし、今日に至るまでその伝統を失わずに生きてこられた民族である。アイヌモシリでは、はるか江戸期以前から、決定的に大規模には明治以降、我々和人によって、アイヌの森は奪われ破壊されてきた。文化の根としての森を奪われた後に来るものは、文化そのものの剥奪である。アイヌ語の使用禁止と、その文化伝承は永い間禁止され、或いは無視されてきている。」と紹介している。

そして、彼らの話を聞き、「私たち

が失った文化を守り、文化の根としての杜の再生への道を模索したいと思います。」とむすんでいる。

また、パネルディスカッション司会

## 絵本紹介

「川はよみがえる - ナシア川の物語 - 」  
リン・チェリー著 みらい なな訳  
童話屋 1950円

北米、北大西洋にそそぐメリマック川の上流、ナシア川(地図帳ではナッシュア川。ボストンの北)にまつわる実話をもとに書かれたこの絵本は、私たちに多くのことを教えてくれる。

7000年前、自然そのもののその渓谷にやってきた人々は、彼らの使うアルゴンキン語でナシャウエイ(川底に小石の光る川)と名付けて住みついた。物語はそこから始まり、彼らの自然と共に生きるくらしが描かれる。

しかし、1600年代に英国人がやってきてから、植民地となり、アメリカ合衆国となって現在に至るまで、そこは大きく変わる。ナシア川は汚染、破壊され、虫も魚も住まない、鳥もけものもこない死の川となり、人間も近くに住まなくなる。ダムも作られる。そして、1962年先住民の血をひく主人公たちが祖先の暮らしたきれいな山河を



夢見て、ナシア川の浄化運動に立ち上がる。そして今、「川底に小石の光る川」はよみがえる。

どのようにして、先住民の生活が奪われ、自然が破壊、川が汚染されてきたか、そして、実を結んだ河川浄化運動がどのように進められたか、きれいな絵とやさしい言葉で書かれている。

7年前、二風谷で開かれた世界先住民民族会議で外国からきた代表が「私たち先住民は、国は違っても、たどってきた歴史と運命はみな同じ」と言っていたのを思いだす。アイヌ民族と私たち(和人)の関係を考えるとき、この絵本は多くの事を教えてくれるだろう。(武田繁典)

# もう一度行きたかったカナダ

貝澤 美和子 (北海道二風谷)

昨年11月、チコロナイをいっしょにやっている北海道、二風谷の方々が先住民交流のためにカナダを訪れました。現地責任者の貝澤耕一さんの奥さん、美和子さんに、その報告をよせていただきました。

「ワアー飛んだ。」千歳空港発の飛行機の中、後ろの席から高校生の歓声が上がる。私も飛行機に乗り始めた頃、思わず口にてたような気がする。カナダには特別な思いがあるので、旅の早々からうれしくなる。

バンクーバーからアラートベイへは20人乗りぐらいの飛行機に乗る。よく揺れるが、飛行高度が低いため途中の地上の様子がよく見えて、やっと今回アラートベイの地理的な位置が確認できた。眼下に見えるバンクーバー諸島は、全てと言っていいほど針葉樹の森で覆われていて、そのほとんどに林道が行きとどき、まるでパッチワークのように伐採林、幼木林、成木林が繰り返されている。確かに山は主産業のために大事にはされているようだが、こういう単一の森で、動植物の生態系への影響はないのかしらと思う。

雪のちらつくアラートベイは、9年前とあまり変わっていないようだ。日本だったら2、3年で地形まで変わってしまうところが多いのに、アラートベイの様子にホッとする。人々も初めて会ったその時と同じ笑顔で迎えてくれた。ただ、子どもたちだけが大きくなっていて年月を感じさせてくれた。あの時と同じように小学生の子どもたちが踊りを見せてくれて、確実に文化の伝承者が増えているのを感じた。

かつて侵略され、弾圧された時代に強制的にヨーロッパ文化を学ばせるために、子どもたちを親から離し寄宿舎に入れ教育をした学校がある。その廃墟の隣に、今は「ウミスタ博物館」が建てられている。その博物館には、カナダ政府に没収され、長年の戦いの末に取り戻した、祭りに使うお面の数々が展示されている。色々な形で外部へ出ていったアイヌの生活民具もいくつか私たちのところへ帰ってくるものがあるのだろうかと思われてしょうがない。



交流会にて

小さいけれどもアラートベイの人々みずから建て、運営委員会をもって運営されている博物館だなどつくづく感じさせられ、大きな博物館(主に白人たちが運営している)にない感動を覚えた。歩いて1日ぐらいでひとまわりできそうなこの島が私は大好きだ。今度は1週間ぐらいここでんびりできる旅がしたい。

バンクーバーで「BCハイドロ」を訪問した。「BCハイドロ」はブリティッシュ・コロンビア(BC)州のダム、水力発電、飲料水、漁業関係等、水に関わる民間会社で、ほとんど独占企業だ。ずっと先住民無視の状態で経営されていたが、20年程前から先住民とのコミュニケーションをよくすることが会社の利益につながる道であると方向転換し、今は先住民の職員も多い。そこで私たちが昼食会に招かれたわけも納得できた。営利主義だけで考えてはいけないうのだけれど、それにしても、日本には何の利益も生まないあ

のおぞましいダムや公共施設の多いことよ。会社側の説明だけではあったが、こういう姿勢が民間の大企業にあるのかと、びっくりしうらやましくもあった。オフィスの雰囲気もとてもリラックスしていて、私たちを歓迎するために来てくれたクワクワ族のジョンハント・ジュニアの歌に合わせて、職員と一緒に昼間から大きなビルのオフィスで踊ったのも実に愉快だった。

ブリティッシュ・コロンビア大学の中に「先住民学びの家」というのがあって先住民の進学率を増やそうという試みをしている。今はまだ学生も数人しかいないが、少しずつ増えてきているという。BC州でも先住民の医師や弁護士は数人しかいないが、色んな職種に進出していくことが先住民の生活向上と失業率低下につながるかと考えているようだ。でも、私にはわからない。確かにそうだろうが、一生懸命勉強して進学していく子どもたちに、それとともに、民族文化を学び伝承させていくにはどうすればいいのだろうか。それは日本においても同じような気がした。引き返すことのできない私たちの文明生活の中で、民族文化をどのように残し伝えていくのか。名解答にどこかで巡り会いたいものだ。

カナダで会った先住民の人たちは多くが、民族としての誇りに満ち、様々な問題に正面から向かっていこうとしているように見えた。そして、その他にもたくさんそういう人たちがいるのを感じた。とにかく、彼らのパワーと数に圧倒される旅だった。

(1997.1.11)

## 第20回チコロナイ学習会のご案内

日時：1月25日(土)16時~18時

場所：GEN事務所

内容：チコロナイに関する新聞やテレビ、書物、現地の情報などを持ち寄って、交換しましょう。今年の学習計画を話し合います。

参加費：100円+カンパ

問い合わせ：武田繁典(TEL/FAX. 06-704-7720)

初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。どうぞ。

## チコロナイアイヌ語講座

~いやでもわかるアイヌ語~

### 第2期第3回

日時：1月25日(土)14時~16時

場所：GEN事務所

資料代：第2期6回分で2,000円

問い合わせ：平石清隆(TEL. 0745-23-5627)

第1期からの人も、初めての人もどうぞ。1回だけの飛び入りも大歓迎。

# いまどきの学祭はこんなもん？

## 講演会 + パネル展示会を終えて

長坂 健司 (GEN世話人・大学院生)

11月は学園祭のシーズン。去年の春に初めてワーキングツアーに参加し、なにかGENの活動のお手伝いがないかと考えていた私が考えたのは、学祭でGENについてのパネル展示と講演会を行うことでした。

結局、京都外国語大学・神戸大学・京都大学で行なったわけですが、現役の大学院生である僕にとっても、大学祭の性格がかなり変わっているのには驚かされました。

GENの企画はどちらかといえば社会

派、まじめな企画なのですが、周りの企画を見てみるとほとんどがフリーマーケットのようなのりの大学もあり、私たちの企画が浮いてしまっている感じを受けてしまいました。震災以降、NGOの活動に興味を持つ大学生が増えているとのことですが、私にはそういった少数の大学生と、それ以外の大学生との意識の格差が大きく広がっているように思えてなりません。GENの活動を学生に広報していく際には、漠然とそれを行うのではなく、NGOの

活動に興味を持っている大学生の層にうまくアプローチしていく方法を考えねばならないでしょう。

とはいえ、パネル展示を見てくれた人々の中には、より詳しい内容を質問してくれる方も多くて、乾燥地帯の緑化というテーマに関心を持っている方の多さを実感しました。なかでも、小学生ぐらいの子供さんをつれて学祭に遊びにこられた中年の男性らしき人が何人か、熱心にパネルを見られていたのが印象的でした。GENの活動に賛同してくださる年齢層の広さにはいつも驚かされます。

今後も、時間があればこのような企画を試みたいと思います。



### GEN講演会 『沙漠緑化と微生物』

黄土高原の緑化にも役立つのではないかと期待される「菌根菌」、すなわち土中微生物。いったいどんなはたらきをするのでしょうか。

日時：2月4日(火) 18時30分～20時30分

会場：アピオ大阪 (TEL. 06-941-6332, JR環状線・地下鉄中央線「森の宮」駅下車)

講師：小川真さん (関西総合環境センター生物環境研究所所長)

参加費：700円

お問い合わせはGEN事務所まで。

TEL. 06-583-1719 FAX. 06-583-1739

### 油彩・水彩 栄永大治良展

95年夏の黄土高原ワーキングツアーに参加された洋画家の栄永さんの個展がひらかれます。黄土高原を描いた作品もはじめて発表されます。

日時：1月18日(土)～2月2日(日) 11時～19時30分 (水曜休)

会場：セントラルギャラリー (大阪

市中央区心斎橋筋1丁目5-24、大丸南館前。TEL. 06-252-0956)

### 緊急発信「重油流出事故」 義援金などのお知らせ

#### 義援金

【福井県へ】福井銀行県庁支店 普通1029128 口座名「ロシアタンカー油流出事故義援金福井県出納長」

【福井県三国町へ】郵便振替00770-0-44000 三国町災害対策本部 ボランティア受付窓口

【ボランティア現地受付本部 (三国町社会福祉協議会)】TEL. 0776-82-5699, 82-5999

【日本災害救援ボランティアネットワーク現地事務所】TEL. 0776-81-3431 FAX. 0776-81-3947

#### 物資援助

長靴、胴長靴、合羽、マスク、ゴム手袋 (肘まであるもの)、金属のパケツ、柄杓、ちりととり、しゃもじ、古タオル、ドラム缶など。

【送り先】福井県坂井郡三国町中央1-5-1 三国町役場災害対策本部 TEL. 0776-82-3111

送料は送り主もち、箱に内容を明記すること。

「重油災害ボランティア」に関するホームページ：http://www1.meshnet.or.jp/response/oil.htm、または

http://www.pref.fukui.jp

状況は日々変わります。ボランティアや物資の受け付けなどに関しては、会報発行の時点で変更があるかもしれません。電話やホームページで最新情報の確認をしてください。



事務所あての年賀状に何通か「黄土高原の四季」の絵はがきをいただき、なんだかうれしい1年のスタートをきりました。もちろん、年賀状だけでなくほかにも使ってくださいね。

絵はがき『中国・黄土高原の四季』  
撮影：橋本紘二 春・夏 各カラー8枚組 1セット...700円 (郵送料別)  
(6セット以上の場合...1セット600円、10セット以上の場合...1セット500円、郵送料込み)

お申し込みはGEN事務所まで。

### 編集後記

遅ればせながら、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

今春から大同で菌根菌の実験をはじめます。なにをかくそうキノコ類も菌根菌のなかま。大同でマツタケができるかな、とわくわくしています。でもいつになるだろう...。(東川)